

To. SIMAC

富記
武藏

昭和廿九年 五月三日

信州大野山集会 長野山集会

「笠置山の事、各山會館の範囲の大體ももつのは大變のせいでありますから……。又山邊は力ナリノ期待ヲかけていた、それが達たせなかつに心痛からだらうか。ぼくはずっとかきかき言つてゐた。又山前は、「立派したらあまり言ひ難い」つものをねつたのに……。しかし黙つていっては皆は何をしでかすか分らぬが、テントの整理一々出来る新人が何人いるだらう。テントまで付ければなくてまへが「五竜アタツクです、鹿島アタツクです」と云ふやうだ。

名の山が登れた。かの崩場をトレースした、〇〇の技術が
いた……云々とひき離れて記述は山を知った夢になろうが
山から何を得たと馬鹿正々堂、山の表面的なもののごく一部
に解いた程度であつた。正、それすらも出来ていいがそれを知
れない。冬の總商と日工との冬の戸隠へゆこうか本懶には段
りれば、大谷坂筋西賀子賀子木人や山行ヨシ、著名な岩場
サトシと云ふ、地蔵堂のことがあつて、かし些れに止んでせは
けり在り、河口左近の所、生れすりき、吹雪の夜、目を醒ま
せし時、首の辻で死んで居る一人起木山、テントノ風リヨウヲ
一也生不中、ソウモナカ御御御御御御御御御御御御御御御
氣弱西ノ時か、ソウモナカ御御御御御御御御御御御御御
千石ノ御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御
御御御御御御御
御御御御御
御御御
御御
御
御

而為我所抑制。這就是、一派的母權力在殖民地的國會中所起的作用。

昭和40年度 冬山合宿の記録

一、目的

1. 極地法により、五竜岳、唐松岳、龍鳥橋岳の登頂
 2. 緩衝期基礎登山技術及び生活技術の修得
 3. メンバー・リッツアの養成

且場所

後立山連峯 遠見尾根→五童岳、唐松岳、鹿島槍岳

星期四

昭和40年12月24日(金)～昭和41年1月4日(火)

民族学

極地誌

四、參加者、構成、記錄

P3

進行動記録

12月24日 土

6:00 長野

8:05 桜木

9:03

11:15 純城 下川さん、
11:40 入山角

0:20 スキー場 登録 少々ラッセルあり

1:20 3Partyに分散 新人不調 トレーニング不足

5:00 BC 法政小屋付近に4つのテントを張る

12月25日 日

6:30 Essen

BC 8:45 BC Party Leader 望月 地名 スキー場のデボをとりに

9:00 9:15 ~ 9:20

BC 9:25 スキー場
10:30

11:05 ~ 11:30 登食

0:20 ~ 0:40

1:10 ~ 1:20

1:55 ~ 2:05

2:30 ~ 2:40

2:50 BC

ウ名でデボをとりに下るも、
思いの他、荷物が多く、昨日
と同様かなりしごかれ。スキー場は例年と異なり、全
く静かそのもの。

BC 9:10 BC (ボッカ) PL柴田 地名

C 10:00 10:15 小遠見から大遠見、八尾根を周辺をさう
記 11:45 登録 になる

0:15 0:30

2:20 2:40 C

5:05 BC

ラッセルにかなりしごかれ
風も少々あり

BC BC→C1→BC隊とC1まで同タイム

PL馬井 地名
予定地より100m下に仮C1設営

12月26日

5:30 BC Essen

BC 7:40 BC

8:35 ~ 8:40 打合地図

BC 9:00 ~ 11:00 スキー場

0:00 ~ 0:10

0:45 BC

首領監督出迎へとデボ入り
前半、雪下ま、薄沢

BC 7:55 BC
 ↓ C 8:45 9:00
 BC 9:50 10:30 小鹿見
 ↓ & 11:40 0:00 C Party 5時より朝は0:15
 BC ↓ 0:45 0:55 小鹿見
 ↓ C 1:20 BC

C 6:30 CzP 雪被

雪が意外と激しく、積雪12~13cmとなり、想定はあいかず、トレイスは消え、足跡も薄く、雪面或いはスルートの心配があり、荷物が多いため、ラッセルか大変な事を見て、迷路とした。

12月27日 O→D

BC 7:30 BC PL 望月池5名
 ↓ C 8:15 8:25
 BC 9:10 9:20
 10:05 10:30 着食
 11:45 11:25
 12:00 0:45 C
 1:10 1:20
 1:25 2:00 中途戻
 2:30 2:40
 3:00 BC

天気よし、今日からB.C.ペーティーとして行動、下りの中途戻を昨日入山されなかつた白瀬監督と共に余すところへ入られるとの事となるので、Cより一人をB.C.へ送りまことにして、服装を後ほど交換し先に下る。加藤C入り、B.C.へ下る。

C 8:00 C PL 望月池5名
 ↓ C 8:30 8:45
 ↓ C 9:35 10:10 着食
 11:00 11:35 C
 0:15 C

初メテ鹿鳴と丸鹿が姿を現せた。
C2人出来ルタケ風呂リノヨイ所ニテンベル。
白瀬さんC入り

C 7:30 C始以後 CzC→C1 Party と同タイム C PL 望月池9名
 ↓ Cz

12月28日 O→D

BC 7:05 BC PL 望月池5名
 ↓ C 7:35 7:45
 天狗岳 8:20 8:30
 BC 8:45 9:20 C 着食

午前 8時 小笠原
9:00 8:45
9:30 11:25 (休食)
11:30 11:40 天狗岳
12:20 0:35 小笠原
1:00 B.C.

時折風の、轟つたりという声が。
かくの行き来が数しい。鹿島や立
花が時々聲を立てる。し、人差手の
鳥物をみて、帰りに小笠原より
天狗岳に向つ。誰も歩いていない
のでラッセルにて告発。それでお
早朝までで楽しい一時を過す。

C₁ 9:35 C₁
↓ 8:30
↑ 厚松 9:30 9:35 C₂
↓ 11:15 11:35
↑ 0:35 1:35 厚松岳
↓ 2:30 2:45
C₁ 3:35 4:00 C₂
4:40 C₁

バック兼唐松アタック
PL赤田池4名 西側監査

出発1時10分は、牛首並りに弱
いと、唐松はかスッサクタ。皆、
次第に牛首をこえる。

C₂ 6:15 フィックスのため先端隊(宇都宮、聖成) 出発
↓ 6:45 C₂出発 PL赤田池4名
C₃ 7:45 500 五竜岳
↓ 8:30 9:00 fix待ち
C₂ 10:00 10:30 飯 食
10:35 11:30 C₃
0:30 6:35
1:00 11:55
1:40 C₂

C₂ PL秋元 池2名 C₂P₂ 同上

サボートに来てくれたC₂隊を送り出し、すぐアロ
ツクを積みにかかる。あと見渡えると早くもG5の
箱ツカキ、一ホーリー、エー、エー、エー、

10:10 8:00 C₁ 昨日、トランシーバーでC₁と交信出来ないまま、にメンバー全員のため
にC₁へ上ったが、天候の異常でいが行動出来なかつたからということで、メンバー全員を明日に延し、船泊の
中C₁に残り、他の6名は再びC₁へ下る。昔のような天気で、美味が悪い。
西瀬監督C₁より下山。

C₁隊 PL 桑田他6名 五竜岳の予定

7:25 C₁ 西遠見進行中、あまりの快晴高温に
雪崩ヲキライ引き返す。快晴の涙で、
イグルーを作ら。

C₂隊 PL 鈴井他6名

7:07 C₂ 五竜岳の登りで、足下より、新雪乾燥
表層雪崩(15cmの厚さ)が多発、ひき返す
鈴井、宇都宮 リッヂをひいていたつし
10:00 C₂ に帰る。

C₃隊 (アタック隊) 秋元、佐藤 サポート向後

7:45 C₃
10:50 11:20 キレット小屋
11:40 キレット
12:20 ~ 55 鹿島槍ヶ岳NP
2:50 4:20 キレット
4:50 5:15 キレット小屋
7:00 ピベック地図

4時半起床。案の定気温は高く、20~30cmの新雪
である。雪か不安定であることを考えて明るく朝方
の待ち、更に視界の開けるのを待つていたら8時
に近くはつてしまつた。

北尾根の頭へのトラバースでさくとアンザイレン、こゝで鬼迷りに来てくれた向後と別れる。この
20mのトラバースでトップは危うく流されそうにな
り筋を冷やす。

最終鞍部手前ははゞ夏道通り。視界は50m位、风
は殆どなく体が汗ばんでくる位。鞍部からキレット
小屋の手前までは棱線通し、小屋の手前で夏道に出
たがこれ以上坂をあがめると、櫛カルシウムばかり

PT

トラバースしたためホール操作に時間をロスる。(帰路は縦線通りにとった。)

小屋で小休、ここからはトレースがあつた。キレットまでは夏道通りであるが夏道が全く使えないキレットの下りは、アプロガイレンする。

鹿島側へ渡ると又トラバース、ここは富山県側に回り込んでからが悪く、先行者の起した大きなナガレの跡に緊張させられる。あとは縦線まで直登、北峰までこれを忠実にたどる。北峰直下40mのところで伊那松本ACの3人の衆に会う。この最後の40mをスタッフカットで登るとあっけないようにピークへ出てしまった。

憧れの鹿島のピークではあつたが、风下を向いて足が翀しながらパンをかじるものが構一杯の有様。帰路に要する時間を考えて南峰を往復することは断念、写真を撮り合い、吊り橋へ下って行く伊那松本のパーティーを見送ってすぐに下りにかかる。初めの一ピッチを慎重に下り、あとはコンティニアス、キレットで先発していたM山岳会の2人に追いつく。

ルートをほぼ夏道にとり、ピッケルで新雪層をカキ落しながら登ったのであるが約2m位、15mの長さにわたって斜面を切りとるこの作業に1時間半を要してしまった。このため大きく計算が狂い、キレット小屋で遅くなってしまう。

小屋で小休の後、往路のトレースがあるので残っているのを幸いにヘッドランプをたよりに歩き出す。ほぼ1時間で最終鞍部への下り口に達するがここでとうとうルートを失ってしまった。すぐにヘッドの光で行動することの無理を悟り、明日は動けることを確信して、ピマークを決心する。丁度2つの岩が巾1m位のチムニーをつくっているところがあり、ここに入つてツェルトをかぶつた。

12月30日 ④→⑧

BC隊

PL望月他5名

五竜へ行きC₁に入る

8:00	BC	メンバー、テンデ。C ₁ よりサブザック
9:00	9:10 小遠見	一つで五竜に向う。白岳の斜面
9:45	10:15 C ₁	でC ₁ パーティーに会い、吹雪になつて
10:45	11:05 西遠見(昼食)	来た中を五竜岳に立つ。帰路ル
11:35	11:45 C ₁ 隊に会う	ートを若干間違えたが、赤旗に
11:55	0:10 C ₂	導かれてC ₂ へ下る。たつた数時
1:25	1:35 五竜岳	間の差となりシゴカれる。
3:40	3:55 C ₂	藤本、市野C ₂ に入り、堀内、井原C ₁
4:55	C ₁	に入る。

C₁隊 ③ PL柴田他5名 五竜行及配置作工

7:25	C ₁	
8:50 9:10	C ₂	下倉、峰村両CB BC入り。
9:50 10:10	五竜頂上	五竜の頂上は風ハアッタが時々晴。
10:45 11:25	C ₂	photoヲトリ下山、皆以外と調子ヨク
11:35 1:15	C ₁	歩く、1ケル。
2:55	BC	

C₂隊 ④ 風非常に強し PL馬鹿井他3名

5:05	起床	今日は彼として、ゆっくりして
10:40	C ₂	いたが、C ₁ 隊が来て、「アタック隊
11:45 0:00	五竜 Essen	と連絡がとれないので、切戸で交信が
1:30 2:25	C ₃ Memberchange	とだれかと言つた話なので、2年
4:10	五竜岳通過	以上4人が出発した。五竜までは
4:50	C ₂	柴田ペーテーのトレースを使って快調。

しかし、その後は、風と新雪でシゴカレタ。C₃をモードを走り回った後、メンバー・エンジして帰る。安の足、激しさを増す雪と風で苦しかった。遅くほど程荒れぬのは分つていたのだから、こんな行動は2度としないと思った。

アタック隊 ⑤ →⑥

6:15	ビバーク地表乾	C ₁ との交信は昨日の16:40から途絶えている。ビバーク中も抱えられる時間には總て電波を出してみたが、いずれも
8:20	C ₃ 着	不通。下のテントで、C ₃ で、心配してくれているだろう仲間のことを考えるとトランシーバーがうらめしくなつて来るから災難なのはこの届械だ。

チムニーが東西に開いていたため風は一晩中ツルトの上を吹きぬけ、窮屈も厳しかつたがさ程の緊迫感もなく、どうやら一夜をすごすことができた。

すつかり明るくなろのを待ち一夜のネクラを後にする。昼間みれば何のことはない、きのう下カラとしていたルートは正しかつたのだ。さすがに疲れていた。手ドリトレースをつけ乍らも一刻も早く向後を安心させたい気持ちで歩を速ぶ。

P9

12月31日 ④ → ①

BC隊 PL柴田池3名

西山、藤沢下山

7:30 30分行動したのみで風呂ヨスギテ引返す。夜は下倉OBの差入れ

8:00 海ヶ嶽合戦ヲギキナカラ ダベル ウヨナナ1965年三。

C₁, C₂, C₃隊 いあれも現。

1月1日 ④

BC隊 PL柴田池3名

8:10 BC 9:10 小遣見

下倉、峰崎OBはC₂往復

9:20 10:20 天狗岳頂上

小遣見送アセン ソレ以外ハツバモ群用

11:00 11:50 小遣見

ラッセルノ樂ミヨ見ツケニ行ツタ天狗ナレド、

0:00 BC

ライドクラストシテイテ アリ樂ミツカヘタ、

元旦早々他人ニヌカレタリナイト金量快調ニハス

ユウ陽ハ予定ノ行動ヲ今日チ終ツタ。

C₁隊 沈没 望月、島下(主)ニ名 C₂へ連絡にあがる

10:45 C₁

B.C.よりOBの下倉、藤村さん等が来る。その顔を

11:20 11:30

追って2名 C₂へ連絡にあがる。白無のピク

0:15 1:35 C₂

へ出たとたん、どうれつな風にたかれる。一時

2:40 C₁

日より連絡がとれていたC₂のメンバーの顔を見て

安心する。 墓内下山

C₂, C₃隊沈没 ④ 風旗し

1月2日 ① BC 沈没

雨 OB下山

④ C₁, C₂, C₃

1月3日 ①

望月 OB会出席のため下山

BC → C₁

C₁(9:50) → (10:35, 11:40) → C₂(11:00) 全19名 C₂に集まり昼食

C₃(8:10) → (9:10, 9:20) → 9:30 fix 9:30 ↑ (11:10) C₂(11:00) → (9:00) C₁(9:30) → (3:45) BC

(10:30)
C₂, C₃隊合流

全員 BCに集結

1月4日 ②

8:10 BC

9:00 9:15 スキー場

9:35 10:00 神城

11:50 松本 解散終了

Ⅲ. 各種の資源
燃 料 係

宮下秀雄

		B	C	C ₁	C ₂	C ₃	備考
延人数	計画(人)	154(30)	71(3)	70(12)	32(9)	(A)	
	実際(人)	107(19)	62(11)	48(8)	21(6)	(A)	
ガソリン	計画(L)	40(1.5)	19(1.25)	19(1.5)	9.3(1.3)	(B)	
無細亞石油 (1L 60円)	使用量 超過量 1人1日当り	約34 +7 0.32	17.5 +2 0.28	11 -1 0.23	8.8 +3.6 0.42	(C) (D)	
ローソク	計画 60本 30本	8本 1本	4 1	5 1	3 1	(E)	
[60本体 40円]	使用量 60 30	8(+1) 1(+1)	3(±0) 1(+1)	2(-2) 1(+1)	3(±0) 1(+1)	(F)	
マッチ	計画 使用量	11箱 6	7 2	7 4	5 0		
メタ	計画 和製 放出 固型	16個(1) — —	8(1) — —	3(1) 1(1) 1箱50本入	— — —	(G)	
	使用量 和製 放出 固型	11(+1) — —	7(+2) — —	2 } (-2) 1 } 日分 0	— — —	(H) (I)	

備考

- (A) () 内は テント数
(B) () 内は 予備量
(C) 実際の 人数に 対して
(D) 計画では C. 25L/人・日
(E) 30本は 予備として
(F) () 内は 超過量
(G) () 内は 予備数 単位 個
(H) () 内は 超過量

(I) スイス固型メタは
使用せず

○ガソリンたついで

C₃においてガソリンの不足をみたことは、至命的であり

- 基本量をもつと考えるべきであつた。―― B.C. も C₃ も 0.25 で計画したことにはまずかつた。――
 - 人数の少ない場合、それと反比例的にある一定値まで、ガソリンの量を増す必要があり、一つのテンントにおける 1 日当りの個々方面の使用量は 約 1.5 l 【 C₂ C₃ においては 1.5 l をやや下まわる。 B.C. C₁ においては (1 人 1 日の使用量) × (平均人数) は 大巾に、ややそれぞれうわまわるが…】で ほぼ一定して 13 点に注目したい。
 - 列車内へのガソリン持込は禁止されており、刃一の場合を考えて、できるものなら現地購入をするべきです。今回は 神城において適当な購入先が無く長野にて買いました。
 - 容器は C₃ - ポリタンことポリタン代用量 C₂ - 4 l カン C₂ - 18 l カン B.C. - 18 l カンを使用

○メタについて

放出メタは一日一個の割でよかったですと思ひます。今後の入手には困難がつくと思われます。

○ローソクについて

明るい、比較的、口一がたれにくいう点で60%の採用はよかつた。

Cのローソクが大部分折れしており、パッキングの際の注意が必須です。

○ マッチについて

使用量よりみて半分位でよかったです。

オワリに この係は範囲がせまいのでやりやすいように思っていましたが 色々と困難がありました

医療係

吉安尚夫
加藤一作

医療使用量

柴薬剤	行動日 1日 1錠 計
凍症	アロテスチン
外傷	ヒルロイド
痛み用	メンソレ
風邪	ペニシリン軟膏
胃腸薬	日薬 ルル 調合 1錠
抗生素質	調合 2袋
その他	正露丸 14錠
	マイカリンソフト 1袋
	タオレン 6錠
	ガゼ ネオバニ

反省

まず第一に計画のまずさを反省しました。俺達は松本にいって何も出来ないから冬休みになつて長野へ行ってからやううという安易な気持ちから充分な計画が出来なかつた事。医薬品の不足、薬品がねれやすいようにしてなかつた事。二人共医療という係を完全に自分の事にしてなかつた事。以上大きな反省をしました。次に各テントの薬品割り当え方法はB.C.C等比較的下山に近いテントでは軽い傷病気に合うもの、C₂ C₃ 等下山に困難なテントは大きな病気傷を手当できるようそれに適当な薬品を割り当てました。

薬品使用カードには使用者全部が記入して下さるようにして下さい。最後に医療係として大した病人ヶ人がなく下山出来ました事を喜びたいと思います。

装備係

八木国久
橋本章

大変勉強になりました。あれこれ不備な点もあったが、入山前に恐れていたような大失敗をやらかさずに済んでホッとしているというのが現在の僕らの心境です。

気がついた事 整理袋が威力を發揮してスムースに事の運びケースが多かった。エアマットについては個人で持つていう人が多くなったから個人装備として考える時期に来ていると思します。又冬用での一斗カンのナベ代用も考慮するに備す

P13

ると思う。何はともあれ無事冬山合宿が終ったこと皆様に感謝致します。

食糧

西山春介
川林元前

今度の冬山はなるべくカロリーを多くすることと、種類を多くして飽きがない様にいろいろ使ってみました。多くに沈黙日と行動日にわけ、沈黙日にはたいくつしない様にチャパティ、おしるこ等もとり入れてみました。係の手書きレーティングの時の失敗もあっていろいろ反省点はあります。ですが、併で次の様なことを反省しました。

- 1 内容の割に計画に時間がかかりすぎた。
- 2 沈黙食と行動食とにわけたのはよかったです。レーンヨーの方法に研究を必要とすると思う。
- 3 レーションが大変にまずかった。買出し量は問題ないと思うが、多い所と不足した所があったのは併で反省しました。
- 4 初日の食パンは良かったが、今までのかたいパンと改良期にきていると思う。
- 5 コンブ。冬は水洗い出来なく不便であった。しるこの砂糖多すぎたしアメは買いました。自作も多すぎた。これは100人があまりとと思う。ラーメンは併のミスで150g/人はいいが実は85g/人で大変少なく申し訳なく思います。

IX.会計

会計報告

聖成秀

収入の部 $3850^{\text{円}} \times 19^{\text{人}} + 2490^{\text{円}} \times 3^{\text{人}} = 80,620^{\text{円}}$

支出の部

食糧	米川麦粉	13,870	その他	355.
	パン	9,330	小計	8,225
	ビシチフード	5,500	医療	620
	その他	28,555.	その他	440.
	小計	57,355	小計	1,060
装備	クレモナ	3,700	被服	1,050
	その他	6,030.	記録	1,000
	小計	9,730	遭難基金	2,200
燃料	ガソリン	5,160	合計	80,620.
	メタロソク	2,710		

X. 個人の感想

冬山合宿の感想

島舉前夫

「ゆとり」山に入るとおいて（いや入山中はいつもおよぼす）如何に大切であるか。上級生には上級生なりのゆとり、（心身両面において）下級生には下級生なりのゆとりがあつていい。一年生だからといってたゞがムシマラにボッカだけをしていても（なるほどそれも大切だが）山に入ったという感覚はないだろう。今までの自分はただ上級生がいうままにボッカして、遅れないでついていく事だけで夢中だった。しかし冬山は元に体調の調整を充分にし、万全のトレーニング（万全とは云々されぬかもしれないが、これだけやつたのだからという気持ち）事前の山の勉強、これらが成されたたら、一年生でもあろうとたゞボッカだけで合宿中を終えるという事はなく、心に、身体にゆとりが行き、一層樂しい山行ができるなど、つくづく感じた。（今まで先輩から言われてきた事だが、実際自分が経験のいくまで研究したのが初めてだ）テント泊での生活と、行動中の注意点も、休憩中におけるの風景を樂しまる事も、すべて一年生にとってはゆとりがあつて初めて出来た事だと思う。それには、合宿中の体力は或るだけ千萬もつくり、体調の調整は万全を期し、合宿にへれば少なくともその何分の一かは達成をきらめくと信じます。今回の冬山が樂しい山行であった自分に、何が一番原因かと訊うと、この結果があらわれた。苦しい中から、山行の楽しさを味わうためにには「ゆとり」のある状態で山行を終らせる事がだ。それは決して怠けるという事ではない。全力を尽し、次の中で「ゆとり」をみい出す事である。

冬山合宿を終えて

市野史明

計画というものは決して背伸びしたものであつてはいけない。冬の北アルプスを恐れて恐れる事はない、決してアナル事はない」と合宿計画書に掲せてあった。僕は少なく述べただけの事は実感できたようだ。30日の五竜アタックの日は僕には山登り以来、初めて経験した貴重な2時間であった。あの人のうるんだ瞳が恋しくなったり、旅本が、母が恋しくなったりはしなかった、又、見栄も、恥も全てのものがなかった、たゞC₂のテントにたまらなく着きたかった。「自分の登山技術、精神力が如何に弱いものか、未だ未だ自分は山には全く無知であるか」と、又、とすれば大学山岳部という名におかれてしまう自分にはずかしかった。僕自身の感想にはなるが、山のトレーニングもこうした所に開心を寄せて

R15

いつのではないか。例えは、物見台の岩登りの際に於いてもであるが、かつてよくスイスイと物見を燈るのもよい、しかし悪戦苦闘して、より精神的なものを求める岩登りトレーニングが必要ではなかろうか。条件の悪い、雨の降る日にアイゼンをつけて、完全装備をして登るのも一方法だろう、又、数本続けて登るのも一方法だろう。かつて、物見合宿の反省の時、「物見岩を窓際の岩と間違えるな」と言った先輩の言葉を思い出す。僕にとって、合宿毎にこの言葉を思い出せる、そんな合宿を今後もちたいと思う。

安全登山を主張するからには、目的をオフに着てても、天候や、条件の悪い日には行動すべきではないだろう。しかしながら登山には危険はつきものである、だから少し位の悪条件では行動すべきであるという考え方もあるだろう。(30日の午後の天候の経験がどのようであつたかは別として) こうなると夏山合宿の場合は少々天候が悪くとも動くとか、ドクターストックなしとか、ビバーク待制せざるとか、積雪期登山の為の実際訓練の場としてそれらしいといふ事にそなりかねそうだ。僕の考えはそのどちらともいえないが、

12月31日、1月1日、2日の3日間の大の後1月3日に、五竜を越えてのに向つたが、30日に入れはしまだ落したトランペースも全く苦勞せず、むしろアリゼンのまじむ音に快感を覚え、下りは、かけがりでも何んの不安をも覚えなかつた。ソウダ、冬の北アルプスを決して恐れる事はない、しかし決してアナドル事がないのだ。 1月3日 PM 9:50 家ニテ

冬山を想ひながら

宮下圭介

世の中に、快楽主義者といふのがいる。彼等は自分の欲求したいに動きまわり、のべつ尊榮にひたつていゐる。しかし、現代は彼等にとっては實に住みにくかろう。欲求したいに動きようものなら、たちまち生命が危くなつてくる。そこで現代、自称快楽主義者といつていふものは、びく狭い範囲で自分の欲望を範囲させるとこまつてゐる。快楽主義は、自由を得る為に試みた最も容易な方法であつたのかかもしれない。おとながよくこういうことを言う、「自由は諸々の道理を完全にこなした後にやつてくる」と、現代の世の中は、人より、道理とか法則とかを早く修得したものか、人より高い地位についていて、高い地位のもの程、自由な事ができるようである。まあ、それはともかくとして、私は、道理とは、はたして何なのかわからぬか、たぶん、今の自分にとつては、

ねずらわしくと、辛い事のように思える。

今迄、「自分が山をやつていく事は、とても無理だ、苦しい、逃げよう」と思った事はたびたびある。すきな事をやりながら、そう思うのがわるい、そのために私は、何年間も山をやり続けていた先輩を、とてもなくひかじオトコと思いつらやみ、また、自分は、わざわざしたや肉体的な苦痛にまでそう思うのだと自分の薄弱さに愁いたものである。

「登山には、ルールのような道理のようないいのがある」と言う人がいる。されば、自分自身のもつ生命を最大に危機から最大に生命に敵しくなければいけないというような事であらうか。私は此をやりながら逃げ続けてきた。平地の生活がもうだらだらの山に向ってそこな事はさきほいのは当然である。しかし、山に入つて、ルールセセスターしないままで生体を助かり続けて山をぐり、そして、平地の生活をたてる事は、必ずやわざといふ事だ。「これもまたやのねばはるまい」と熱してやりぬいた時、母なる山が私を暖かく、心ぐれむよう放棄する。

冬山合宿を終って 宇都宮昭義

下山後、正月も終った家に帰り冰もつたに張らない所が夕し振りの帰省との事で、大事にされて生活すると、冬山での種々の体験、特に旅の爽快は実感としては感じられなくなり、たゞ耳に残った寒傷の痕だけが、本当に寒かったんだと知らせてくれるが、それも消えてしまうとどんな寒さが忘れてしまい、たゞ合宿を感じた樂しかった事、又嫌だった事と云う気持の上だけのものが残るだけになる。そして来年の冬に、実感として冬山の寒さを知るまでは、なつかしさだけがあらうだらう。

最初から変な事を書いてしまつたが、今回の合宿は一口で云えば「思ひ」と云う事を始終した。天気が悪くてテントの内にキビシを着て、裸縄の風雪を忍び、アタックできない事を忍び、巣から巣へと忍び通し、3日の下山日に天気が回復して、忍びから解放されたのもつかの間、翌日の下りで、法政小屋からスキー場まで、恥を忍んで、シリゼード、こゝで完全に忍びの台頭にとめをこした。確かに冬山では晴れる事は少い、かそれにしても今度は山天鏡園の西高東低の山脈しか山の事はなかつた。それも山頂においては毎日続く雲霧、毎日、天鏡園の雲霧門が開いて行き、明日は晴れんのかと油然だが、と云ふふうが続いた生活、晴れ・雨

アタックとの事で緊張した気持が、泡瀬日数もぼぐれずに、何か決定的に天気の悪くなる低気圧でも来て、ゆっくり氣を抜いて休みたいと云う気持、又早く晴れて、アタックをやつてしまいたいと云う気持、それが毎日毎日の泡瀬で、ラジオから流れて来る下界での華やかな年末年始の通りで、一方早くアタックを終えて下山したいと云う気持をかき立ててる。

何か下山してから考えるに、僕の登頂への意欲は泡瀬日数に反比例して減って行ったような気がして、自分でとても残念である。

果して僕には、アタックメンバーに選ばれるだけの資格、特に鹿島へのアタックに対する情熱がどれほどもったのかを考えると、何か(?)に上った時から下山までの事を考えると自分自身にそれを向いたくなれる現状である。

又、それらと平行して考えるのは、自分も含めて総てのメンバーに、今一夏、山岳部におけるメンバー減少と共に今回におけるような極地法による登山が現われてくる、個人の欲望と全体とのかねあわせと云う事を考えさせて呉れたる意義は合盾であったと思う。特に極地法と云うものを初めて経験した人には、いかに全体の目的に自分と云うものをあてはめて行く事が、重要な事で、又困難な事がかかるかつたと思う。僕はその経験を充分に生かして行きたいと思うし、又皆さんもそれを生かして行ってもらいたいと思う。

又、最後に苦言として云いたい事は、2年生は1年生の見本として、又中堅部員としての活動がありそれをやつてもらいをかつた事、そして1年生にはもつと考へ深く行動してもらいたかつた事、そして同じ誤りを2度も3度もやらないようにな、今回の冬山と云うものを、後の山行に生かしてもいいとい。そして声を大にして云いたい事は、ズクを出せと云う事、何事に於いてもズクなしは人間のクスである。

冬山合宿について 駒井 浩

非常によい冬山であった。僕自身が良かったと思つていいように、名人良かったと思うのは多々あつた事と思う。それら良かったという点はしきつておいて大切にしよう。

次では感想や反省を離れて、サブ・リーダーの目に映った欠点だけを述べる事にする。

①、ズク無しのが多かった。2年生が見本を示し、1年生が見習つてほしかったのに、そういう光景は殆ど見られなかつた。

②、計画性に乏しい。朝五時に飯をう、何時に起きれば良いかというような時に、明日は風雪だと予想がつけば、ラッセルの時間なども計算に入れるべきだ。

③、アイゼンやワカンの練め方が悪い。バンドの長さ等も、上級生の話をもとに、下界で会わせて見ればわざりそうなもの。

④、ちょうどよく住みよく、ちょうどよく楽しくという固体意識の欠陥。
以上千点を挙げたが、二点等は皆、つきつめれば①のズクなしに換言できるのではないかどうか。

余裕がないから上記の様にならうのである。余裕がないというのは計画性に乏しいからである。という事はつまり計画を立てて、予定を組むというズクがないからであろう。往々当たりばったりの欠陥が表わされたものと思う。

今回僕は、殆ど叱咤やコゴトを云わなかつた。そういう事は、B.C.やC₁で云われたりやうし、今までの合宿でわかつていいと思つたからだ。だからC₂では冬山の自然の厳しさを味わつてもうえはよいと考えたからである。その為にも、月の最も厳しい場所へC₂を設けたのである。皆さんが自分から進んでどんな事をするかと思つて見ていたら、流石に3年部員、2年部員、新人といふ順によくやる。テント内の整理でも、上級生が先になつてや

P.9
るようではどうかと思う。

次は今年度最後の合宿だ。自覚をもって成功に導いてくことを期待しくペンを置く。

"ある山日記"

望月映洲

12月〇〇日

又一人乗連れた。神城で向かいばいフというものはではない。夏、秋、そして今度の入山。毎合宿こういうことが繰返えされくらいはいうことは一体どういうことなのか。部員一人、一人に自覚がないからだ。こんな簡単なことも出来ない人間の集りで何が出来うというのだ。合宿に二川が尾をでかなければいけばいフが----

40kgず後の荷物でバテる者がぐる。そんな君には、「4月からお前は体をして来たんだ」と聞きたくなる。今回 入山前にはじめにトレーニングをした者が果して体いいだろう。

云うべきもない。トレーニングは大切である。上級生だからといってトレーニングがあろつかにユリイフはずがない。自然は常に上、下級生の区別をつけはしないのだから。

12月〇〇日

今年の新人は礼儀というものを知らないのだろうか。どんなに科学が進歩しても、どんなに社会が発展しても、矛頭とは関係なく人間が存在する限り、やはりそこには礼儀というものは必要だと考えるのだが----。時代が違ひ、こう考えるのは自分が古いせいなのだろうか。

12月〇〇日

昨夜、「明日はエッセン〇〇時、出発XX時」と伝えたのにしかからず 黙って見ていたら出発が10分も遅れた。出発3分前に

一人が気がついと、「後3分しかないと。」と云つただけである。合宿に入つてもう一回向たつた。決められた時間に出发するのには遅くとも5分前には体操が始まらなければならぬこと位知る。いろいろはずなのに。

いつまでたつもすべくがこんな調子だ。ビナリたいのを我慢しきいたら、フト思い出した。——新人の時の夏、エッセンの手違いで出発が20分遅れたことがあつた。「ああ、この20分をどこでとり戻す気だ!」とどなつたあの時のリーダーのこと。

体力的に、技術的にまことにだけが山登りであるはずがない。

12月〇〇日

今日は天晦日。停滯のため少しずつと夜遅くまで過す。B.C.にいと昨日のメンバー、チェンジまで毎日動きづめだったんだからたまにはいいだろう。天候に感謝しよう。

天気図では明日も動けそうにない。しかしC₂との連絡が昨日からとだえている。一人だけ重ねて明日はC₂へ登つてみよう。

風の音を除けば静かな年の暮。思い思いのことをしていろ皆んなを見つめついで、昨日の五竜の下りのことと思い出し、再びゾーッとした。今年生じたからきっとあんな行動をしなかった違うに……。

1月〇〇日

今日も吹雪。C.L.との合意、で明日C₃が動けたら、先に次アタックをやめにし、B.C.へ集結するという結論を出す。

メンバー、チェンジをしてC₂へ入つてから一日も動けなかつた。それは仕方のないことだし、我々だけで合宿をしていふ訴ではないのだから当然のことなのだが、自分はともかく、唐松へ行けなかつた新人のことを考えたらかわいそうになつた。立場の相違なのだろうか……。

P21

1月〇〇日

O.B会へ出席のため自分だけ先に下山する。入山以来初めての好天気。素晴らしい後立山の山々。こんな日があるから山はいゝんだな、きっと。

昨夜色々な注意を与えておいたから、僕がくだつてもきっとうそくやつくなさうだろ。

去り難いがくだらなければならぬ。合宿も明日で終りだ。色々な、本当に色々な意味と感情を、そして感謝をこめて、「気をつけよやれよ。」と一言だけ云った。残った皆んなはそれを全部受けとつてくまなくだらうか-----。

遠見尾根から見た白馬の盆地はこんな日でも、いつもと変りがないそのままの姿だった。

感想文

藤本正二

初めての冬山合宿であった。この合宿で、僕は数々の失敗を重ねたが、今後はこの経験を生かして行きたい。

冬山は、最も美しい山の姿である事がわかった。

先輩のおかげを感心したのもこの合宿であった。最も嬉しいかったのは、正月二日に、C2のテント内で、僕の誕生日を祝ってくれたことである。二十歳となつた自分の内出とし、あの荒天のテント内の雰囲気は最高であった。成人となつた自分を振り返ってみたし、家に居る両親の事も思い、更に理想とする恋人の現れが見える時をも空想した。ここに閉じ込められた事が窮屈であるとは思ひなかつた。去年の春山の時にも三日間テント内に閉じ込められたが、その時と比べてさうも、今回は苦しく思つた。しかし次に今回は、詩を書きたくなつて、山日記に、二。

三の前と、日記をかいだ。三十日には手紙もかいだ。よく僕達は山に来ている時は、全く別天地へ来ているような錯覚を起し易いものであるが、それは間違っていると思う。どんな時でも、「俺達は、山へ来ているんだぞ、他とは別なんだ。」というような感じだけは持ちたくない。

○編集後記

種々の御協力を得まして、奥に不備ながらも、記録を行なう事になりましたのは、記録係として喜びにたえません。本記録が、山岳部発展のため、又、部員皆様のため、何らかのお役にたつん事を祈る次第でござります。

昭和四十一年一月二十七日 (井原)

